

春 頌



昭和50年1月号

No.281

昭和五十年を迎えて

難関突破に勇気を

町長 小野 弘



ここに輝く昭和五十年の新春を迎えましたことは、町民の皆さんと共に同慶にたえません。昨年町政振興にご尽力をいただきました皆さんに、心より厚くお礼を申し上げます。

この難局を打開するには国民の理解と協力なくしてはできません。私たちは今後政策の実行を注視しながら、協力すべきは積極的に協力し、批判すべきは批判を、不正のない正しい政治が行なわれるように念願してやみません。

安定経済への転換

経済界はインフレと不況の交差の中にあつて低迷をつづけており、徐々に転換するのではないかと思われます。総需要抑制あるいは金融引締め措置がだんだんと効果を奏して、最近企業においては事業の操短、人員の整理、倒産があいついで起つています。このまま進むなら、国民の生活はいろいろな面で圧迫をうけ苦しむことになるのではないかと、ある程度の需要抑制、金融の引締めは必要だと思

三木内閣の出現によって政治的には一応安定を見出した感があります。しかし私たちは過去幾度かおとすれた困難を克服して、今日の繁栄を築いているのであります。常に勇気をもつていかなる危機に遭遇しようと、必ず突破する覚悟で前進したいと思つて

苦しい地方財政

最近地方財政は極度に悪化し、黒字財政から赤字財政への転落も覚悟しなければならぬ状態になりました。これはもちろん財源の枯渇と同時に、必要経費の異常な膨張によるものと思われま

すすむ工場誘致

本町の基幹産業は、農林業であります。世界的食糧の危機が農業重視の方向に変わったことは希望の持てることであります。最近みかん、しいたけ、木材、まゆ、畜産物の値下りと生産費の増大は、農林業に対する意欲を低下し、この状態が続くなら、まさに憂慮すべき問題が起ると思われま

ふるさとに愛着を

また経済繁栄の陰にあっていでの生活困窮者、身体障害者、母子家庭、老人対策、青少年対策など急を要する福祉行政が山積をしております。人づくり運動は、町づくりの基本であります。将来の飛躍に備えて、すたれつつある人間性を回復し、また町民意欲を表現して豊かな郷土を築かねばなりません。

共同募金の益 金で歳末慰問

町社会福祉協議会

昭和四十九年度の共同募金は、みなさんのご協力により、二十万八千円と町目標を上まわる結果をみました。このうちの六〇％は町へかえされます。

また、歳末たすけあいについても社会福祉協議会、民生委員、役場、その他のみなさんのご協力により、この善意を恵まれない人々へ早速お届けすることにして次のとおり歳末慰問を実施しました。

▽長期入院患者見舞、六十六人
▽ねたきり老人その他の見舞五十二人
▽九十才以上の高齢者十五人
▽県内の各福祉施設十施設
▽老人ホーム錦峰園

香典返しで 寝台を購入

町民の社会福祉に対する関心が高まり、近年香典返しとしての寄付が多くなりました。これらの善意、故人の意志を具現する方策について、社会福祉協議会では理事會を開き、四十九年度は町内のねたきり老人の福祉対策として寝台を二台購入し、貸付けることにしました。そして車椅子四台も備え付け、ヘルパーや家族が付きそつ

新春を迎えて

土の香をたかめよう

町議会議長 三浦 治郎吉



昭和五十年の新春を迎え、町民の皆様とともに喜びにたえませ

一言ごあいさつ申し上げま

年頭にあたつて

頼もしい人づくりを

教育長 高森 文夫



今年、県が力をこめて入れている「明日をきずく人づくり運動」

の指定を受けて、本町の「人づくり運動」に全力投球をしたいと思

が、誘致条件を整備して真に農林業と融和して、定着するまでにはかなりの時間を要するとしても、これによって過疎化の歯どめをし

所得の向上を図らねばならぬと思

また経済繁栄の陰にあっていでの生活困窮者、身体障害者、母子家庭、老人対策、青少年対策など急を要する福祉行政が山積をしております。

昭和五十年は、地方統一選挙の行なわれる年でもあります。この選挙を通じて一段と町政の発展を期待せねばならぬものであります

新しい年を迎え、新しい気分です。農林業政策を主軸に、道路、教育、福祉行政と数多くの問題も

相となるでしょう。農業が優先される時期に对照し、祖先の残した耕地を有効に利用し、貴重な宝として土の香を高めていくことに喜びと誇りを持ち、郷土発展のために、なおいつそうの努力をおねがいするものです。

農林業政策を主軸に、道路、教育、福祉行政と数多くの問題も

現在町の人口七千を将来は一万程度に増すため、当局は工場誘致策をたて、その見通しも明るいよ

たくましい身体と豊かな心、すぐれた知性と強い意志を持った頼もしい青少年を育てるために「揺かごから墓場まで」の生涯教育の理想に沿った行政を念頭に置き、

一つ一つの施策を実現していかなければならないと思つていま

揺かごからの教育というのは、取りも直さず「乳幼児」からの教育

「家庭教育」だということになりま

皆さんのご多幸をお祈りいたします。

農地の相談は 農業委員へ

農業委員会では農地流動化対策事業の仕事をしています。農家のみなさんが、農業経営の規模拡大、農地の集団化などを

たえば①田畑を一カ所にまとめた

なお、この制度によって田畑の

皆さんのご多幸をお祈りいたし

生産地と消費地をむすぶ

農産物の産地直売

町では、農産物の生産者価格の不安定と消費者価格の高騰を幾分でも是正し、生産者と消費者が各々の立場で最少限の利益を受け、しかも、長期的に安定した価格を設定し、そのことによって消費者が要求している鮮度の高い生鮮農産物を短時間に安価で供給する目的で、東京都内に消費取引き地を開拓いたしました。

四十九年度は、三十年にわたる価格暴落で悩んだ寺迫地区のみかんの取引きを始め、十一月中旬までに早生温州みかんを出荷しました。そして、十一月下旬より普通温州みかんの出荷を始め、三月上旬までに出荷を終る予定です。

また、四十八年度より農家が直接自分たちのグループで出荷をしている寺迫地区の早期水稲製作利用のにんじんも、十二月下旬から三月までに出荷する計画です。

このほか、四月から六月にかけての市場のにんじんの端境期をねらって出荷する計画で、越表地区で試験栽培も行なっています。

家の手取金が、四十九年度からは生産経費を上回る販売ができる見込みです。

としての価値が産地と消費地を直結することにより高くなり、さらに販路は安定し、茎や葉は肉牛の飼料として利用できることから、関係農家はこの産地直結に生産意欲を高め、本来の農業者の姿にかえりつつあります。

流通機構を改める

そこで改めて考えさせられることとして問題点は山積しています

が、巨大な社会構造の中で、慣行の農産物流通機構のあり方から脱出し、生産経費プラス利益という農家手取金を基礎に販売できる市場開拓が先決であるようです。

販売先が確立しないままでは、計画生産にも意欲はわいてこないでしょう。そこで、産地直結市場との安定した長期取引を確立するために、農業者が積極的に生鮮農産物の栽培に参加し、さらに生

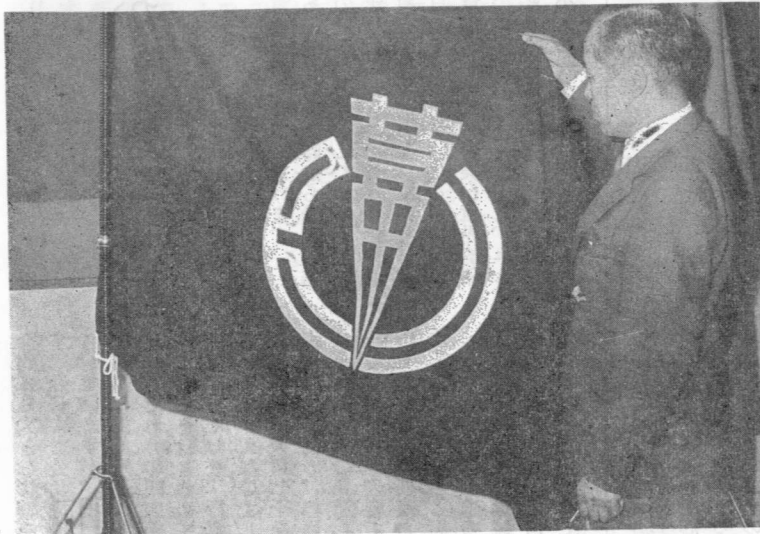
産から流通機構すべてを含めて、慣行、慣習の中で改めるべき点は早急に改めることが要件の一つでもあるようですし、新しい農業の発展に努力していただきたいと思うのであります。

所得税法の改正

昭和四十七年一月一日から五十年十二月三十一日までに、自己の居住用家屋として工事に着手し、または新築家屋を買った場合、六カ月以内に居住することを条件として「住宅取得控除」を受けることができます。

この制度の改正点は次のとおりです。(この改正事項は四十九年一月一日以後新築などのものから適用されます。)

- ① 家屋の面積が百六十五平方メートル以下(改正前百二十平方メートル)
- ② 控除限度額が一年に三万円を三年間(改正前二万円を三年間)
- ③ 年末調整で控除できる(第一年度で確定申告しておけば、給与所得者の場合は二年、三年目は確定申告の間がはぶけます。)



町来り別幕

牧水先生がとりもつ縁で本町と姉妹町の盟約を結んだ、北海道幕別町から町議会議員のみなさんが来町されました。

一行の山田議員以下二十四人は十一月二十七日、空路九州入りし大分から阿蘇、高千穂を経て南日向に到着しました。翌二十八日、本町議場で小野町長らが歓迎会を催しました。席上代表から幕別町旗と牧水歌碑の写真入り額縁が本町に贈られました。

このあと牧水記念館をはじめ町内の産業施設などを視察、翌二十九日に西都原古墳群や日南海岸などを観光し、日向港からカーフェリーで帰途につかれました。

本町を訪れたみなさんは、初めて牧水先生の生地である本町の自然環境と豊かな人情に接したことを喜び、今後ますます両町が友好を深めることを強く希望しますと感慨深げに話していました。

こどもたちの声

町の青少年問題協議会では十一月十八日、中央公民館で「子どもたちの声を聞く会」を開きました。

この会は、町の行政機関の幹部と町内各地区の子どもの代表が一堂に集り、子どもたちの理想や生活体験、教育、社会環境などを通して考えていること、将来に対する展望などの意見を聞き、子どもたちの社会参加と行政との対話を深めるとともに、町政に対する理解と見聞を広める目的で開いたものです。

この日は町内各小・中学校から男女各一名が参加し、①いまわたしたちができることは②こんな人になりたい③もしわたしがおとなだったら—という三つのテーマを中心に話してもらいました。

実行に移すべきだと思います。

町民性かもしれないませんが、東郷の人はとりつきやすく、あきやうという面があるのではないのでしょうか。ぼくもボーイスカウトに入っていますが、ぼくを含めてそのような気がします。ぼくは決ったことは最後までする責任感の強い人になりたいと思います。

また、ぼくは世間の人たちにいわくをかけない人になろうと思っています。誰でも考えることですが、現実には人にいわくをかけている人が多すぎるのではないのでしょうか。たとえば爆発物を仕かけて罪のない人にケガをさせるといった具合に。しかしこういうことはやめた後でワイワイ人が言うだけで、すぐに忘れ去られてしまいがちです。現代社会はお金ですむことが多すぎると思います。

でもぼくはどんなにびんぼうしても誰にでも信用される、肩書きだけの人でない人になりたいと思

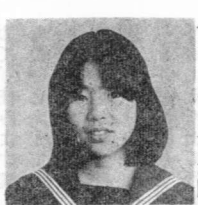
発言者

- 東郷小 6年 小 林 洋 二
- 東郷小 6年 矢 野 佐代子
- 福瀬小 6年 小 林 宏 司
- 福瀬小 6年 小 塩 月 光 子
- 坪谷小 6年 若 杉 太 子
- 坪谷小 6年 川 島 恵 智 子
- 越表小 6年 谷 渡 浩 子
- 越表小 6年 甲 斐 し ず 子
- 寺迫小 6年 黒 木 真 一 美
- 寺迫小 6年 海 野 晴 美 生
- 東郷中 2年 清 水 昭 生
- 東郷中 2年 矢 野 は や 子
- 坪谷中 3年 三 浦 善 人
- 坪谷中 3年 寺 原 五 十 鈴
- 越表分 3年 平 島 一 男
- 越表分 2年 河 野 ひ と み

記録

企画開発課 企画係

の廃品回収や校内の無人売店による利益によって、少しでも設備をよくしようと努めています。たとえば、山越えをしてくる遠い所の人は、ふいに雨が降りだしたときなど今まではぬれて帰っていましたが、その人たちのためにかさを何本かそろえました。でも私たちにできることは限られています。それと体育館がないのも残念なことです。雨の日の体育授業や部活動などは、外で雨にぬれてするか、中止する必要がありません。体育館を使用する必要があるときには、小学校の借りていますがい



ろいろと不便です。もう少し学校の設備を整え、体育館などもつくってほしいと思います。

学校設備を整えて

河野ひとみ 私たちの学校は、分校であるうえ人数が少ないからか設備があまり整っていません。反面人数が少ないのも、校舎が古いのも家庭的でなじみやすいともいえますが、教室に入ってくる冬のためにはあまりよいとは思えません。

私たち生徒としても、部落ごと



清水昭生 町を美しくするため

町民憲章を守ろう

に、町内のチリチリや箱、ゴミ捨て場の調査を行ないその対策を話し合っ町ぐるみの美化運動を起すことはできないでしょう。

次に町政がしかれて五年になりますが、町民歌、町民憲章ができていないのははつきり覚えていて、はつきりしたことだと思いません。それで町民集まる会合、大会などで必ず町民歌をせいで唱えるように心がけるべきではないでしょうか。町民憲章がある以上みんながそれを守るためには、全部暗記し

農業に取り組みたい



三浦善人 環境というものはチリ一つ落ちていてもたいへん変るものです。ほくたちは牧水の学校は牧水記念館の近くにあるので、毎月

記念館を清掃しています。でもいくらほくたちがきれいにしても、次に行ってみるとチリがたくさん落ちていきます。記念館に来ていただくことはいいことですが、その人たちがチリを捨てたまま帰ってしまうのは非常に残念なことです。これは記念館に限ったことではなく、ほくたちが学校に通う途中でもよく見かけます。

また、車の窓からミカンの皮やタバコの吸いがら、空カンなどを平気で投げ捨てる人のいることを耳にします。こんなことがせつかくの自然環境をよごし、社会環境の汚染につながるのではないでしようか。

人はチリが落ちてくるのを見かけたとき、はずかしさが先にたつてなかなか拾えません。でも自分たちの町をほんとうに愛しているのなら、はずかしいという考えはなくなるはず。自分たちの町を自分たちの郷土として自慢する

ことができるならば、町はしぜんときれいになり、町内の美化につながるのではないでしようか。

ところで今の若い人たちは、自分の郷土に何のみれんも感ぜず、学校をおえると都会へさつさと行ってしまします。ほくは都会のことより自分たちの町のことを見なおさなくてはいけないと思うのです。自分たちの町のよさがわかっ

てこそはじめて都会のよさもわかるのだと思います。都会では第二次産業、第三次産業が重視され、私たちが生きていくために欠かせない第一次産業、

花いっぱい

運動を

川島恵智子 私は学校へ行く途中キクやコスモスなどいろいろな花を見かけます。美しい花を見て、私は大きくなった花を作りたいと思います。まず花をつくるために土地を買



咲いた花は自分の店で売ります。また、いろいろな花のタネを合せてめづらしい花を作り、外国やよその県、町に売り出したいと思

います。それから、花の苗を道路わきに植え、近所の人たちにも手伝ってもらい県内全体に花いっぱい運動

つまり食糧生産が軽んじられていると聞きます。ほくは土地にあつた郷土の農業を見なおしていきたいと思つています。

宮崎県にはサップというものがあつたことを知っています。ほくの町でも部落でもさかんにサップ運動がおこなわれていますが、ほくもサップというのはいよいものだと思つています。またそういう活動をするのに私たちの郷土は地理的にも風土的にもたいへん恵まれて

いると思ひます。ですからほくは将来サップの一員となって、農業の近代化について真正面からとりくんでいきたいと思つています。そしてそうすることによって、ほくは食糧供給基地としての東郷町の町づくりと発展につくしたいと思つています。

をすすめていきたいと思ひます。今、大都市では自然をこわして工場やビルなどをたくさん建てています。宮崎県でもゴルフ場やホテルなどがつくられています。設備はととのつても少くも自然がこわされています。だから、東郷町から花いっぱい運動をすすめてそれを各地に広めていきたいと思ひます。さらに煙を出す工場を何か所か集めて、日本を大自然国にしたいと思ひます。

交通規則を

守ろう

平島一男 今からほくは二つのことについて話します。まず、ほくの住んでいる越表部



落は、体育大会をするにも何をするにも部落の人たち全員が協力してやってくれます。これはほくたちにはありがたく、将来もつづけていかなければならない、大事なことだと思ひます。

しかし、悪いと思ふこともいくつかあります。一つは大人も子どもも交通規則を守らないことです。車の数が多いうえに道路がよく

やひやすることがあります。地域の行事にはほくも積極的に参加したいと思ひます。そして交通指導をして交通事故をださないようにしようと思ひます。

子ども会では廃品回収や部落に花を植えたりして、少しでも地域の環境をよくしようと思ひます。今ほくたちはこんなことしかできませんが、大人になったら良いことは伸ばし、悪いことは改めて、住みよい楽しい地域社会にしたいと思ひます。

つぎに、もしほくが大人だったらこの地域に会社をつくりたいと思ひます。山の中にあると仕事がなく生活に困りますので、どうしてもよそに出て行かなくてはなりません。こんな現象が起らないようにするには会社をつくって地域の

の人に働く場所を与えてあげたいわけです。また、ほくたちの身近な問題として高校に行くのに遠くにお金がかかりすぎるということ。バス賃でも月に二万円近くかかりなかなか子どもを学校に出せません。出したとしても日向や延岡市内に下宿しなければならず、親の苦勞は大変です。友だちの中にも進学したくてもお金がないからという人が何人かいます。このような人のためにも、もしほくが大人だったら高校が身近なところとして考えられるよう努力したいと思ひます。

お医者さんになりたい



海野晴美 私たちはいつも大きくなつてからの職業について考えますが、私は、どんな職業についてもいっしょうけんめいする人になりたいと思ひます。

私の夢はお医者さんになることです。私の祖父や祖母はすぐ病気になる。祖母は目が悪く、今年の五月ごろからとうとう目が見えなくなりました。祖父も目が悪く、もう少しで見えなくなると

です。その姿を見てると、お医者さんになって治してあげたいし、どんなおとしよりでも病気を治してあげたいからです。それに地球の重さより重い人間の生命を助けることができ、元氣になつて帰って行く人の後姿を見たらどんなにうれしかがわかるからです。交通事故でケガをした子どもや重い病気で長く入院している子どもたちを元気づけてやることもできます。

二番目の夢は作家か詩人です。それは詩をつくってたくさんの病氣の人をなぐさめられるし、苦ししい思いをしている人たちを童話や物語、小説でなぐさめてあげたい

からです。私はサトウハチローのような詩人になりたい。サトウハチローの小さな秋見つけたの詩が大好きで、その詩をきいてると何かが心にしみこんでくるような気がします。詩には人の心がよくあらわれています。私もその詩の

つつじを

町中に



矢野佐代子 今、私たちが社会の一員としてできることはいろいろあると思ひます。たとえば、東郷町を美しくすることなどだと思ひます。

私の家の裏につつじの木があります。これは祖父が何年前か前に植えたものです。それが毎年四月になるとさすもも色の大きな花を咲かせています。私はこの花が咲くたびに、これが東郷町の町中に咲いていたら

ように人の心をうたいあげたらどんなに楽しいことだろうと思ひます。三番目の夢は小学校一年生の先生です。何も知らない一年生にこれからおとなになることをおぼえてほしいからです。私が一年生のときの先生が病気で三カ月間休まれたことがあります。その間、教頭先生に勉強を教わりました。この教頭先生のような人になりたいと思つたからです。

いのにと思ひます。でもそうなるとしても容易なことではないと思ひます。でも容易でないかも知れないけれど私たちがこのことをしなければならぬのかも知れません。今では東郷町にも病院などができてたいへん便利になりましたが便利にしなから、自然を守ることがしていかなければならないと思ひます。便利さのために自然をこわすようなことはしたくないのです。

生きがいある

保母の仕事

寺原五十鈴 私たちが地域社会の一員としてできることは町内の美化だと思ひます。よく「川などに



むやみにゴミを捨てないように」とか「花などを大切に」などという標語を見かけますがそれよりも自然を愛する心をもつことが大切と思ひます。

各部落会などの活動も、自然を大切にすることを目標として、寺や神社、川などの清掃をするようにし、まず自分たちの身近かな所から町内の美化運動をすすめてい

おとなはチリ

を捨てないで

塩日光子 いま私にできることはチリを落さないで、この郷土東郷町をきれいにすることです。



福瀬小で運動をしていっしょうけんめいやることにしようと思ひます。チリは減りません。それは拾うことばかり考えていて、チリを捨てないよう

に気がついていないからです。また大人が車の中から空カンやチリを落したりするのをよく見かけます。

つたらしいと思ひます。また、私は将来保母になりたいと思ひます。新聞などでよく見かける若い母親が赤ちゃんを殺してしまうとか、ロッカーなどに入れておくことなど、あまりにも赤ちゃんの命を粗末にします。私は尊い人の命を大切にしたいことができたならこんないいことではないと思ひます。そのようなことから保母の仕事は私にとって生きがいがあると思ひます。そして、地域の人たちからも好かれるそんな保母になりたいと思ひます。

が、大人がチリを捨てていれば子どもでもマネをします。それで道路のところでゴミ箱を用意したらよいと思ひます。そうすれば車の中のチリなどをとめてゴミ箱に捨てるようになるのではないでしようか。それに私たちが登校途中に、チリなどを学校までもって行かずにすみます。

福瀬小ではガラスや空カンなどを捨てる場所がないので、先生がときどき車で日向市のチリ焼き場まで運んでおられます。一カ月に一回は行かなくてはならず大変だと思ひます。日向市ではチリを集めに清掃車が週に何回か来るそうです。東郷町でも一カ月に一回でもいいから、そのような清掃車が来ればよいと思ひます。

あいさつをしましょう



矢野はや子 私はいつも明るく笑顔のたえない人になりたいと思います。自分でいやなことがあるとすが、そのときはもうおそいことが多いのです。そんなことを大人になるまでにおおしたいと思いたす。

すぐ顔や態度にあらわす方です。自分で気がついてアツと思うので

今私たちにできることは善意の仲間を一人でも多くつくることだと思ひます。

先月の文化祭のバレーボール試合の後、ゆつくりしたいと思ううえにそうじもしなければという心もありました。でもそうじのことはいつの間にか忘れていました。先生に言われてあわててやったのです。そのとき私たちがしなくても他の人がやってくれたらよい

花を育て郷土を美しく



小林洋二 今年の春のことです。兄と二人で親せきの家からもらった桃の木を植えていると、通りかかった教育長先生がさくららの苗を一本くださいました。二人で堤ぼうのそばに植えました。水をやりにながらこの木が大きくなって花をつけたら、堤ぼうのあたりが明るく美しくなるだろうと思ひました。また、堤ぼうぞいにさくららの木

がずっと並んだところも想像してみました。そんなことはすぐにはできませんが、花を植えることぐらいいたらできます。たった一輪でもとにかく花が咲いていればその周りは明るくなるものです。並んで咲いていれはもっと美しくなると思ひます。それまで気にとめなかつたことを、このころからやつとまじめに考えるようになりました。

黒木真一 ぼくの夢は科学者になることです。それは四年生のときから思ひ始めました。五年生のころ先生が「将来、何になりたいか」と言われたとき、

科学者になりたい

ぼくは「科学者になりたい」と言ったらみんな笑いました。ぼくは笑うのが当然だと思ひました。それは、誰もが簡単に科学者になれるものではないからです。でも、ぼくは地球のために役立つ科学者になつてみたい。科学者は不可能を可能にすることがあります。だからぼくは科学が好きです。未来にどんなことが発明されるかわかりません。将来科学者になったら、世の中の人のために何かを発明しまた発見して、不可能なことをどんどん可能にしていきたい。そしてこの地球の科学に不可能なことはないようにしたいと思ひます。今は人は月までしか行けません。ぼくは月より遠くへ行けるような宇宙船をつくつてみたいと思ひます。

むかしは科学を戦争に使つていました。人間は原子はくだんを発明して、長崎と広島に落しました。そのために多くの人がなくなりました。戦争のおそろしさがここにみられます。科学は戦争に使うものではなく、人類の発展のために使うのだと思ひます。科学をいいことに使い、世界を平和にしていきたい。ぼくは将来こんな科学者になりたいと思つています。

自分で決めたら

自分でまもろう



若杉 太 ぼくは今まで、ぼくにできることでもすんでやっていませんでした。でも先生や家の人に言われたときにはしっていたので、しかし自分でまもることは

守られました。チリ箱を置くことはあまり守られませんでした。それはぼくたちが先にしなければならぬことを忘れていたからです。忘れていたことは悪かつた反省しています。ぼくたちが決めたことはぼくたちにできることです。だから話し合ひで決めたことは守らなければならぬと思ひました。

おとしよりを訪ねて、はげましてあげるということがありました。今までは宮そうじぐらいしかしかつたし、そんなことははずかしいやらめんどくさかつたのでしませんでした。そんなことでは何もできないと思ひます。ぼくの家は去年の十一月二十六日に父が病気でなくなりました。そうしたら今度は今年の夏に母が手にケガをしてしまいました。今までは祖父と母が二人で仕事をしました。母が不自由になつたので苦労が多いと思ひます。これからも母や祖父に苦労のないようにならなければならないと思ひます。

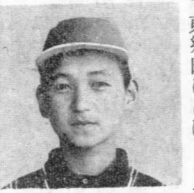
おとしよりをいたわる



小林宏司 今ぼくたちにできることはいろいろありますが、ぼくはおとしよりをいたわるというのをしたいと思ひます。おとしよりは、今まで社会のために尽くしてくださつた人たちです。しかし最近はおとしよりをいたわる姿をみかけないし、都会では老人ホームに入れたり、おとしよりといつしよに住んでいないからです。まずぼくたちにできる方法はバ

スの中で席をゆずつてあげたり、重い荷物を持つているとき持つてやること、用事をたのまれたときはすぐにしてあげるなどがあります。そしてからだにあつた仕事をしてもらうこともよいと思ひます。仕事をすればからだもなまらなないし、農作業なら収穫の喜びもあります。作つたものを家族の人から喜んで食べてもらえばなおさら生きがいもあると思ひます。それからおとしよりにさびしさを感ぜさせないことも大切です。そのためいつも話しかけるのもよいでしょう。

父のあとをつぎたい



谷渡 浩 ぼくの家族は五人で、父と兄と姉は日向市に出ているので東郷町にはぼくと母の二人だけしかいません。兄と姉は高校一年と高校三年生です。父はトラック

甲斐しず子 わたしは四人姉妹のいちばん下です。いちばん上の姉は日向市の合資会社、二ばん目の姉は看護婦として働いています。わたしは将来二ばん目の姉のように看護婦になりたいと思つています。なぜかという、わたしは一生人のためになるような仕事をしたいからです。人のためになる仕事はいろいろあると思ひますが女の仕事としては看護婦が一番よいと思つたからです。

ぼくと母は土曜と日曜日は日向市に出ます。そんなとき父が「おまえはどんな仕事をする人になるつもりか」と聞くことがあります。急に聞かれるとよくわかりませんが、ぼくも父のあとをついで人から信頼をうけるような人になりたい、今の会社よりもっとたくさん

そのためには、いっしょうけんめい勉強して高校に行き、看護学校に行きたいと思ひます。そしてみんなに信頼されるような看護婦になりたいと思ひます。ケガをしている人や病気の人を看護したり看護婦の仕事はたいへんだと思ひますが、やりがいのある仕事だと思ひます。



消費生活を考える

越表で移動センターを開く

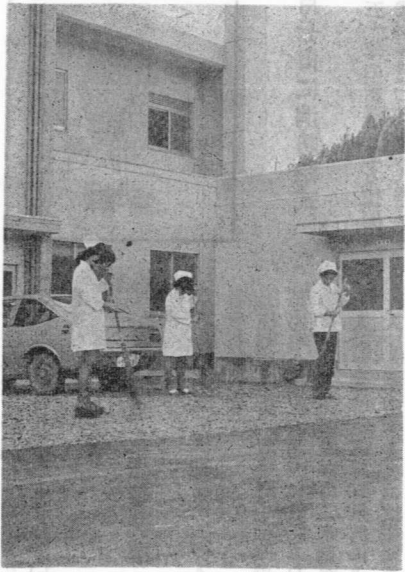
越表小学校で移動消費生活センターがあり、越表地区の消費者二十五人が加工食品の選び方、買い方について勉強しました。

最近では、私たちの身のまわりにはたくさん商品がはらばらしくなっています。それらは私たちが豊かな生活を営むうえに便利なものがほとんどですが、一方では生命をおびやかすようなものも指摘されています。年末には即席めんが問題となりました。

ふだん私たちが何の気なしに使っているようなものでも、つきつめてみるといろいろな問題があります。受講した人たちはみんな話に熱中し、昼食ぬきで消費生活について考えていました。

鈴峰園のおとしよりが贈る

役場などに竹ボウキ



十二月五日、鈴峰園ですごしておられるおとしよりの代表が、庁舎の掃除用に使ってくださいと竹ボウキを届けてくださいました。

この竹ボウキは、ホームのおとしよりの方が日ごろからモウソウ竹の枝を拾い集め、根気よく作ったものです。そしていつもお世話になっていきますからと役場のほかには老人福祉館、町立病院、日向農協東郷支店、森林組合、東郷小学校、東郷中学校に届けたものです。最近では忙しさのあまり竹ボウキを作るといふことも少なくなりました。善意の竹ボウキで病院などで庭の掃除用としてさっそく使わせていただいています。



郷土のあゆみ (25)

十一、明治時代 (10)

町の総面積の九〇%を占めている山林原野の経営は、町民生活に重要な地位を占めています。明治三十年ごろまでは関心が至ってうすく、明治三十一年に東白杵郡長に村が提出した事務報告書の一節に「木炭椎茸は好評にて販売拡張されたが、原木が乏しくなったので植林の法を講ぜねばならぬ」とあります。

明治三十年、三十一年に県は農商務省から山林技官を招いて県下各地を巡回させて林業の改善、植林の指導に当らせ、翌三十二年には巡回教師を常置して苗木養成法、造林法、森林経営法、林産物製造法などの知識技術の普及につとめました。

日露戦争記念のため県は植林をすすめて、明治三十八年四月林業奨励規則を公布して樹苗を無償交付して各市、町、村百ヘクタールの造林をすることとしました。

本町でもこれに呼応して各部落に記念植林をし、町内各小学校でも学校林を造成しました。明治四十二年の記録によりますと植樹数は樺九万七千本、松三万本、杉五千本となっています。明治四十五年には町は各部落青年

団に杉、松の苗木を無償配布し、区有地を向う五十年間貸与して造林をすすめました。

日向農協寺迫支所に利権回復の碑が建立されています。これは現寺迫部落民有林千四百ヘクタールに関する記念碑です。

この山林は古くから寺迫部落有でしたが、今から約百三十五年前、貧困に苦しむ部落民は延岡藩の豪商石見屋に永代売却し千五百兩を得ました。その売渡証文の中に「一万一山から火災を免れたときはこの契約は取消す」との一項がありました。数年後山より火を免れて部落民は総出で消火に当り、七日目によく鎮火しました。

部落民は約束によつて山林を寺迫部落に返すよう石見屋に迫りましたが応ぜませんでした。大庄屋寺原十三郎氏に訴えました。寺原氏は永代売却は失敗であると考へ、買戻しの裁判を決定し、もし敗訴すれば庄屋にとどまることもできぬと思ひ、寺迫の向原に屋敷を準備して裁判にかかりました。訴訟費用と山代金返戻金は美々津町の松本屋岩本八太郎氏の援助を受け、寺原十三郎氏の指導の下に部落民四十五名が一丸となって裁判に当り、明治二年ついに勝訴となりました。寺迫区民は現在も毎年この碑の前につどひ、先賢たちに感謝をささげています。

成人式を迎えて

仕事に責任をもつ楽しさ



福畑 ひとみ (小野田)

桜の木の下を新しいランドセルを背負って一年生、そして中学校を卒業、就職と二十年間の長いよう短い私の青春。ふりかえってみてこれといった思い出はありませんが、私の一番の思い出は就職して自分で責任をもった仕事をす

るうれしさと楽しさです。私は今、東郷町立病院に看護婦として働いています。この職業は自分で決めたものではなく、母が勧めた仕事です。最初、人の世話を、それも病気で悩んでいる人の看護をするということが私にできるだろうかと思いましたが、なんとかやっています。

この病院はおとしよりの患者がほとんどです。おとしよりは若い人たちがつちよつとしたことでもよく気にします。だがが考えてもつまらないようなことでも、やさしく親身になつて聞いてあげな

くはいけないが、だんだん仕事に慣れてくると、あの患者はいつも同じことを言っているやだなあと思ひ、患者の立場になつて物事を考えなくなる時があります。自分でも、あとからあれではないか、あのときはこうすればよかったとか、こう言えばよかったとかいろいろ後悔します。そんな自分を他人はよく見えています。部長から注意されるとときもありますが、どうしようもない自分の性格なのだと思つたりもするのです。

でも私の仕事はそんなことではないので、いくら仕事ができても患者に対するやさしさが欠けてはだめです。ある人から「あなたは東郷町民のために働いているか」と質問されたことがあります。私はそんなことを一度も考えたことはありませんでした。でも東郷町の全住民のためということはもちろんですが、病院に来る一

部の人のためにだけでも役に立つよう、もっと勉強して部長のような一人前の看護婦になりたいと思ひます。

二十歳になった青年を励ます意味で、一月五日に本町でも成人式が催されます。二十歳になるその日から、成人として多くの権利が与えられ、義務が課せられますが国民年金に加入することもそのひとつです。

若い人は、老後は遠い将来のことと考えているようですが、老後の設計は青年期からはじめておかなければなりません。年金制度は

20歳になったら 国民年金に加入

その設計を国と国民が連帯して行うために設けられている制度です。

このようなことから、国民は必ず何かの年金制度に加入する建前になっております。ですから、二十歳になった人は、会社や官公庁に勤めて厚生年金保険や各種共済組合に加入している人、その配偶者、昼間部の大学生などを除けば必ず国民年金に加入しなければなりません。また、他の制度の加入者の配偶者や大学生などは、希望によつて加入できることになって

民生委員さきまる

町の民生委員の新しい顔ぶれがさきまりました。

民生委員は、生活困窮者や児童の保護をはじめ、身体不自由者や老人、寡婦の生活の保護・援助につとめていますが、11月30日で3年間の任期が満了となったため、町民生委員推せん会の決定を経て県に進達、12月1日付で厚生大臣から委嘱されたものです。

- ▷寺迫=黒木光志、橋口虎市 ▷福瀬=田辺清吉、高木マキエ ▷小野田=塩月ミドリ ▷鶴野内=鈴野明 ▷迫野内=歌津博 ▷八重原=那須留 ▷田野=田中甚則 ▷羽坂=平塚音吉 ▷仲深=中野辰巳 ▷坪谷=矢野文雄、井上三二 ▷越表=下渡川=河野定男

栄えの生存者叙勲

秋の生存者叙勲が11月3日の文化の日に行なわれました。町内では新名義消防団長が晴れて受章し、11月15日、東京都の日消ホールで伝達されました。

新名義さん (63才・福瀬) 勲5等瑞宝章



昭和2年11月1日、当時の消防組組員を拝命以来今日まで、部長、副団長、団長を歴任。本町として町民消防の発展に貢献、消防団長の生命身体および財産を守るため献身。

県国民年金 大会で受賞

国民年金施行15周年を記念して宮崎県国民年金大会が11月26日、宮崎市において行なわれました。

その席上で、特に国民年金事業で功績のあった人たちに對して、表彰状、感謝状が渡されました。本町における受賞者は次のとおりです。△社会保険庁長官感謝状=仲深区・羽坂区 △宮崎県知事感謝状=庭田組合 △宮崎県国民年金福祉協会長表彰状=国民年金委員 橋口 登

お知らせ



一月七日に消防始式

昭和五十年の新春を飾る恒例の消防始式が一月七日午前八時から規律訓練、機械器具の点検を総合グラウンドで、また小型動力ポンプの放水競技を農協下の河原で挙行することになりました。

当日は各部とも消防団員全員が出動してそれぞれ点検を受けることとなりますので、火災の予防に

充分注意していただくとともに、ご声援を賜わりますようお願いいたします。

町営住宅入居者募集

二月に完成する町営住宅の入居者を募集します。

- ①住宅の場所 東郷町小野田舟戸
- ②住宅の構造 耐火二階 二DK
- ③家賃 一万円程度(未確定)
- ④入居者基準 東郷町条例による入居を希望する人は役場総務課に申込書がありますので早目に申込みしてください。二月末日で締切ります。くわしいことは総務課にお問い合わせください。

し尿汲取り日程

従来のし尿汲取り日がこん月か

みんなで祝福

成人式おめでとう



ら次のように変りました。汲取りの申し込みは期日の前日までに、役場住民課(電話五六六七)に連絡してください。

し尿汲取り日程表(日)

区	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	9	7	5	2	2	5	2	5	5	4	5	3	
2	17	13	12	9	8	12	9	13	10	8	12	10	
3	22	18	20	16	14	20	15	20	18	15	19	17	
4	29	26	26	22	21	25	24	25	26	22	26	23	

汲取りの区割

- 一区 福瀬、小野田(大谷・小野田・又江野の国道すじ川端の田村ガソリンスタンドまで)
 - 二区 小野田(一区以外)
 - 三区 羽坂、田野、仲深、坪谷、越表
 - 四区 鶴野内、迫野内、八重原
- ▼注意事項
。申込みした人は当日自宅にいないと汲取りできませんので、ルースされる場合は隣の人に料金をあずけていただくようお願いいたします。

今月の納税

国民健康保険税 六期
町 県 民 税 四期
納期 一月三十一日

浄化槽は直接、日向衛生公社に電話依頼してください。浄化槽は必ず毎年一回以上清掃するようにしてください。
日向衛生公社(日向②五三〇五)

善意のともしび

●坪谷区の寺原新吾さんから故マツさんの忌明けに●寺迫区の新名理一さんから故リウさんの忌明けに●同区の橋口岩男さんから故和吉さんの忌明けに●越表区の石田フデノさんから故嘉市さんの忌明けに●福瀬区の鶴田シナ子さんから故辨男さんの忌明けに香典返しとしてそれぞれ町社会福祉協議会にご寄付いただきました。

ここに慎んで故人のご冥福をお祈りしますとともに厚くお礼を申し上げます。

人	口
49年12月1日現在	()は対前月比
男 3,427人 (+3)	
女 3,655人 (±0)	
総 数 7,082人 (+3)	
世帯数 1,794世帯 (-3)	

戸籍たより

十一月届出分

出生おめでとう

赤ちゃんの名	父の名	部落
井上博希	井上博	鶴野内
田中子保	田中子	鶴野内
黒木成正	黒木成	坪谷
糸平徹一	糸平徹	鶴瀬区
松本智士	松本智	小野田

結婚おめでとう

氏 名	部落
高野今朝男	寺農迫
上野祐朝	都農迫
奈野光雄	羽村坂
黒木光雄	西郷村
黒木光雄	西郷村
黒木光雄	西郷村

冥福を祈ります

氏 名	年令	部落
横尾和男	〇才	坪谷
寺原マス	八五	坪谷
橋口和吉	七九	坪谷
新名リウ	八〇	坪谷
黒木志朗	七三	坪谷
鶴木樹男	五〇	坪谷
沖田ケサ	九一	坪谷
石田嘉市	六五	坪谷